

東北地方 1か月予報

(2月17日から3月16日までの天候見通し)

平成19年2月16日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

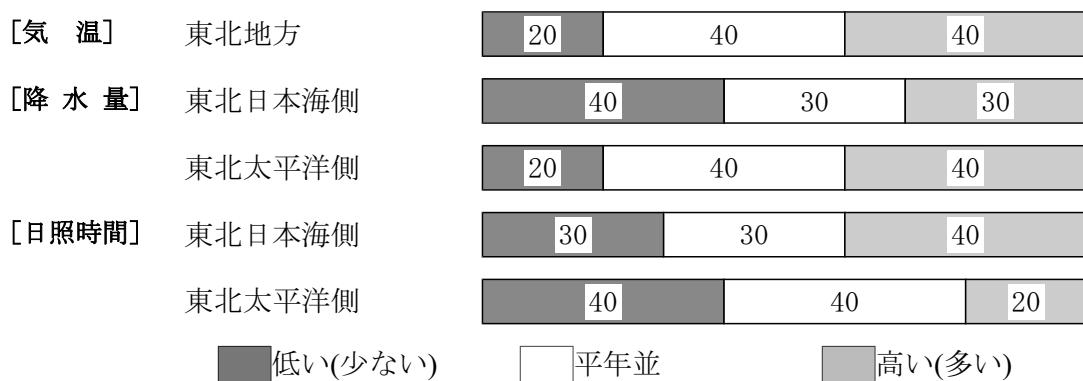
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

東北日本海側では平年と同様に曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

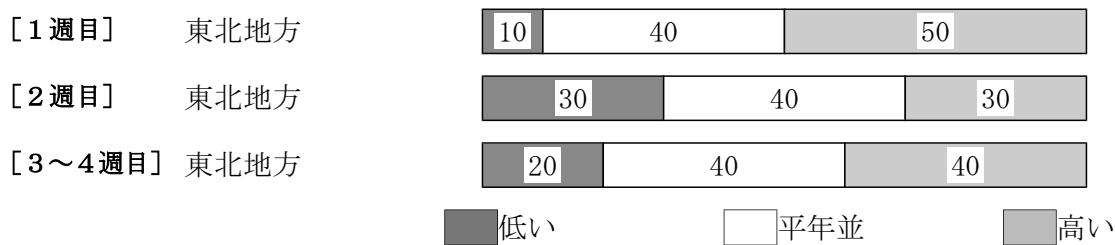
向こう1か月の平均気温は平年並または高い確率がともに40%です。降水量は東北太平洋側で平年並または多い確率がともに40%です。日照時間は東北太平洋側で平年並または少ない確率がともに40%です。

週別の気温は、1週目は高い確率が50%、3~4週目は平年並または高い確率がともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

1か月 : 2月17日(土) ~ 3月16日(金)

1週目 : 2月17日(土) ~ 2月23日(金)

2週目 : 2月24日(土) ~ 3月2日(金)

3~4週目 : 3月3日(土) ~ 3月16日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報: 毎週金曜日 14時30分 次回は2月23日

3か月予報: 2月22日(木) 14時

暖候期予報: 2月22日(木) 14時

＜参考資料（平年並の範囲等）＞

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温)

	気温 (°C)	降水量 (mm)	日照時間 (時間)	気温(°C)		
				1週目	2週目	3～4週目
青森	0.3	81.3	101.2	-0.8	-0.1	1.0
深浦	1.0	70.9	75.9	0.0	0.7	1.7
むつ	-0.2	74.0	117.1	-1.2	-0.5	0.4
八戸	0.5	45.2	144.7	-0.6	0.2	1.3
秋田	1.5	87.0	93.2	0.4	1.2	2.2
盛岡	0.0	61.2	140.9	-1.2	-0.4	0.8
大船渡	2.0	63.5	146.7	1.2	1.7	2.6
宮古	1.5	72.8	157.8	0.5	1.1	2.1
仙台	3.0	55.1	157.4	2.0	2.6	3.6
石巻	2.2	50.4	165.8	1.2	1.8	2.9
山形	1.2	62.7	118.3	0.1	0.8	2.1
新庄	0.4	114.9	82.0	-0.7	0.0	1.1
酒田	2.7	96.9	87.4	1.7	2.3	3.3
福島	3.2	57.7	153.8	2.1	2.7	3.9
若松	1.1	60.7	112.6	0.0	0.6	1.9
白河	1.9	51.0	159.8	0.8	1.4	2.6
小名浜	4.8	72.3	170.6	4.0	4.5	5.5

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971～2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差(°C)	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.7～+0.6	83～110	95～105
東北日本海側	-0.7～+0.6	91～108	91～108
東北太平洋側	-0.6～+0.6	75～116	97～104

(3) この予報期間の1週目、2週目、3～4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3～4週目
東北地方	-0.9～+0.9	-0.8～+0.8	-0.5～+0.4
東北日本海側	-0.9～+0.9	-0.8～+0.7	-0.6～+0.5
東北太平洋側	-0.9～+0.9	-0.8～+0.8	-0.5～+0.4

＜参考資料（利用上の注意）＞

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成19年2月16日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(2月17日~3月16日):

天気は数日の周期で変わるでしょう。東北日本海側では平年と同様に曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

平均気温は平年並または高い確率がともに40%です。

1週目(2月17日~2月23日):

東北日本海側では気圧の谷や寒気の影響で雪や雨の日が多いですが、期間のはじめと中頃は高気圧に覆われて晴れる日があるでしょう。東北太平洋側では期間のはじめは気圧の谷の影響で雨や雪の所がありますが、その他の日は沿岸部を中心におおむね晴れる見込みです。

平均気温は高い確率が50%です。

2週目(2月24日~3月2日):

天気は数日の周期で変わるでしょう。東北日本海側は平年と同様に曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

平均気温は各階級の確率の偏りは小さい。

3~4週目(3月3日~3月16日):

天気は数日の周期で変わり、本州の南岸を通る低気圧の影響を受けやすいでしょう。東北日本海側では平年と同様に曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側では平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

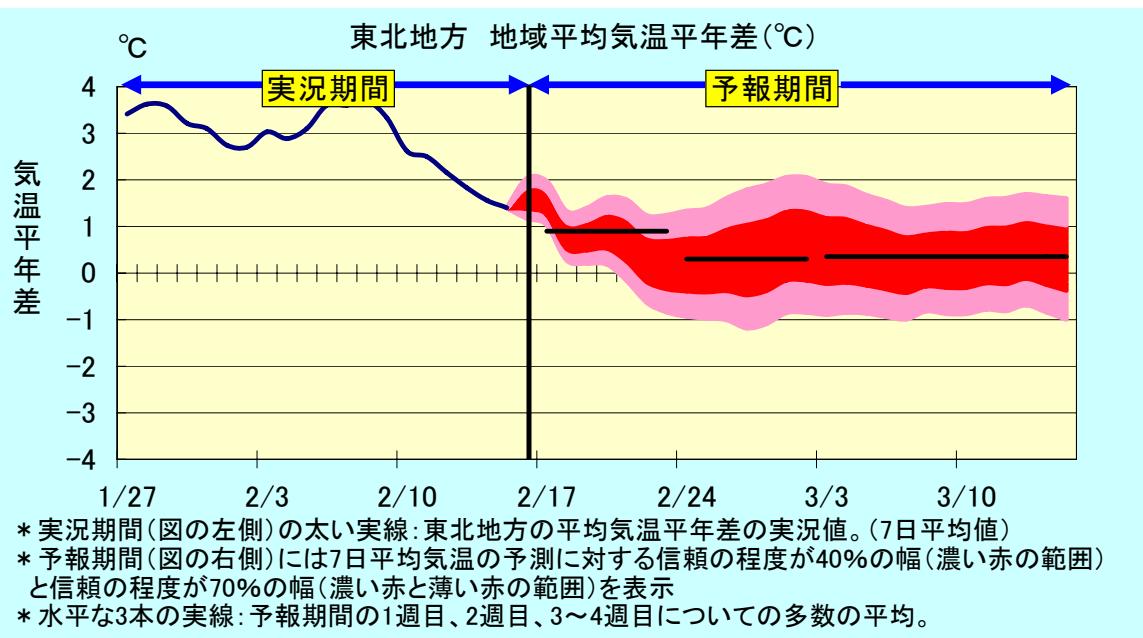
平均気温は平年並または高い確率がともに40%です。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	9.2日	1.6日	2.2日	5.4日
東北太平洋側	17.7日	4.2日	4.3日	9.2日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別のアンサンブル平均気温は、月を通して平年を上回る予想となっている。なお、数値予報の信頼度は大きい。

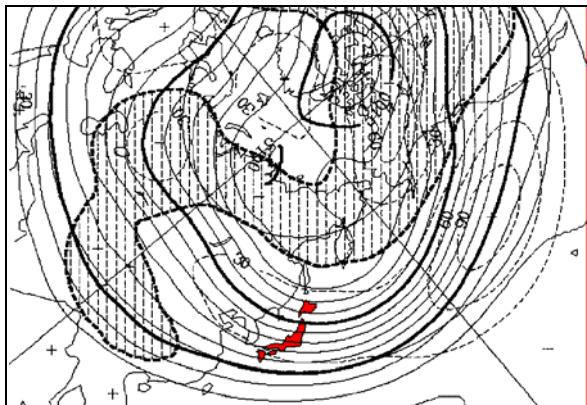


3. 1か月平均と1, 2週目の上空の大気の流れの予想 (500 hPa 予想天気図)

1か月平均：大陸から太平洋にかけての中緯度では、帯状に正偏差が広がっている。また極付近も正偏差。一方、シベリアでは負偏差となっている。このため寒気が持続的に南下する可能性は小さい。

1週目：日本付近は太平洋から伸びる正偏差域に覆われている。一方、シベリア方面は負偏差。このため、冬型の気圧配置となる日は少なく、天気は数日の周期で変化する見込み。

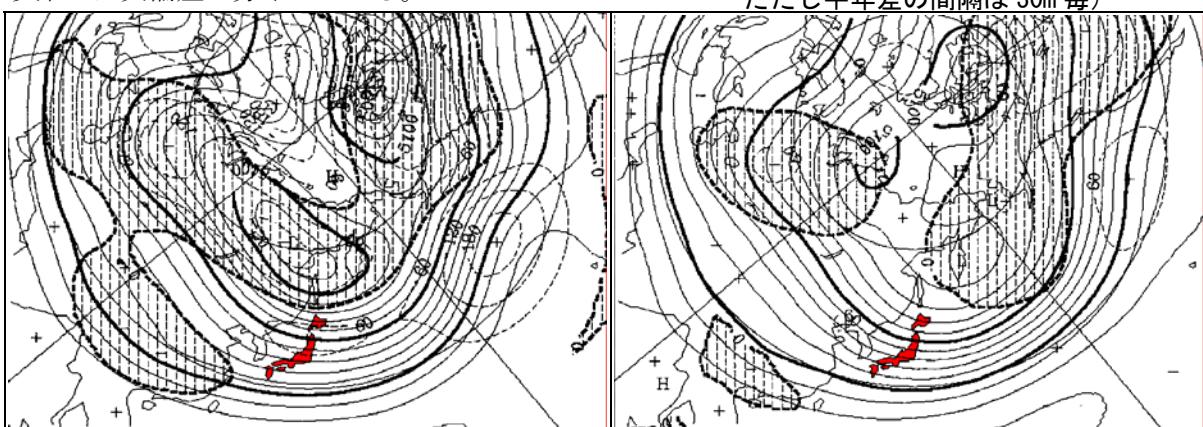
2週目：日本付近は1週目から引き続き正偏差だが、正偏差の程度は小さい。カムチャツカ半島以東には負偏差が分布している。



1か月平均 500hPa 予想天気図

(図の見方は1, 2週目と同じ)

ただし平年差の間隔は 30m 毎)



1週目平均 500 hPa 予想天気図

2週目平均 500 hPa 予想天気図

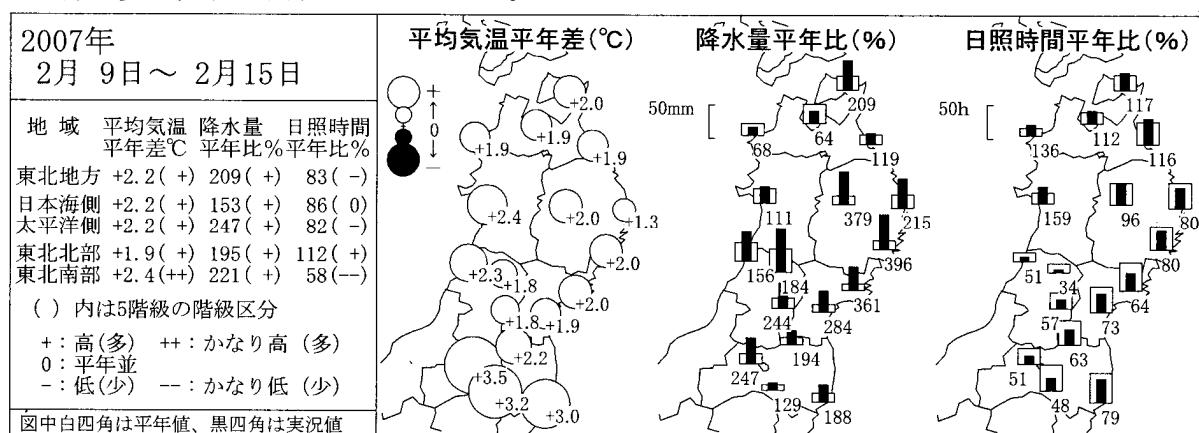
実線は、等高度線（間隔 60m）、点線は、平年差（間隔 60m）

陰影部は、負偏差で一般に寒気に対応する 白抜きは、正偏差で一般に暖気に対応する

4. 最近1週間 (2月9日～2月15日) の天候の経過

この期間、冬型の気圧配置は長続きせず、天気は数日の周期で変化し、気温は平年より高く推移した。14日は低気圧が発達しながら日本海から東進したため、東北地方はまとまった雨や雪が降った。14日は八甲田山前嶺付近で雪崩が発生し2名が死亡した。15日は冬型の気圧配置が一時的に強まり、日本海側を中心に雪が降った。

平均気温は東北北部で高く、東北南部でかなり高い。降水量は東北地方で多い。日照時間は東北北部で多く、東北南部でかなり少ない。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）